

Brightness



and

Darkness

Title

Brightness and Darkness

静かにピアノの旋律が流れ込む
少し間をおいてから、客電がフェードアウトされる
そして、幕が上がる・・・

Darknessがたった一人で必死に走ってくる
何かを・・・だれかの助けを求めるかのよう・・・
次々と光がその姿を消し、
深く青い闇がその広がりを見せる・・・
Darknessはついにその場に立ち止まってしまふ

Darkness 「・・・どうして・・・なんで私ばかり、こうなってしまうの・・・？」

Darknessが何かの気配に気づき振り返る
それはどんどん迫り来る
Darknessは恐怖で体が震える
必死に逃げようとするが、体がうまく動けない

Darkness 「いやっ・・・やめてっ、何をするの!!」

次の瞬間Darknessは誰かに突き飛ばされる
思わずたおれこみ、痛みのがあまりうずくまる
ようやく、よろめきながら立ち上がるが、
立ちあがったとたん、どこかに押し込まれそうになる

Darkness 「お願いっ!!やめて・・・っ!!!いやっ・・・」

どこかに閉じ込められ・・・暗くて何も見えなくなる・・・

Darkness 「出してっ・・・ここから出してっ!!!・・・お願い」

Darknessはその場に力なく崩れこむ
静かにただ一人すすり泣く・・・

暗闇の中に穏やかに光がさしこむ
あおの光の中からBrightnessが杖をたよりに歩んでくる
Brightnessのまわりから少しずつ光があふれだす

Brightness 「・・・・・・・・きこえる・・・誰かが悲しんでいる、ずっと・・・
どこにいるの・・・？何に・・・おびえているの・・・？」

Brightnessは杖をたよりに手をのばす
手をさしのべて・・・

Darknessはあたりに響く闇にいて・・・

それは、ただそこでこだまするばかりで、何も見えない・・・

Darkness 「なんで・・・私ばかり・・・一人なの・・・？
どうして、私ばかりが・・・誰かに縛られて・・・自由じゃないの・・・？
私・・・私は・・・ここに・・・」

Brightnessが静かに雪のようにあらわれる

そのまわりには光がそそいでいる

Brightness 「・・・生きている」

Darkness 「生きている・・・私は今生きているの・・・？」

Brightness 「・・・どうして？」

Darkness 「・・・いつも、あの子たちに追いかけて、
暗いところに閉じ込められていた・・・
私のものが、日に日にひとつずつ消えていった・・・。
何かが消えていくそのたびに、私は・・・剥がれていくみたいだった。
ただ、ありのままに正直なだけで・・・
追いやられる、おいていかれる・・・
そのこわさから私は・・・
ありのままの自分を、暗い深みにしずめた・・・。」

Brightness 「自分を・・・責めているの？」

Darkness 「私から、すべてが・・・夢、自由、ありのままの私を消された。
親さえも、誰かと比べては・・・私を否定した。
私には、何もなくて・・・誰もいてくれない。
自分を見失って・・・こんなに孤独で、こんなにこわくて・・・
・・・私は本当に・・・生きているのかなって・・・そう思った。」

Darknessはその場に凍えてしまう

BrightnessはDarknessを見つめて穏やかに微笑みかける

Brightness 「・・・ここにいる。」

Darknessが顔をあげる

Brightnessが天を仰いで手をのばす

Brightness 「ここに今を生きている・・・。」

DarknessはBrightnessの指先の天を見る

何か近づいてきている・・・

Brightness 「むねの奥から・・・心から喜んで、あたえて、歩んで、
かけて行って、時を流れて・・・
愛しくて、かけがえがなくて・・・・・・・・・・ 生きているあかし。
ここにそれを刻みつけるのもそのひとつ。」

Darkness 「・・・・・・・・。」

Brightness 「この世に生を受けたとき、私は生まれつき闇に生まれた。
一度も何ひとつ見たことがない・・・生まれたこの世界を。
苦しくて、悲しくて、寂しかった・・・・・・・・ずっと、一人で・・・。」

」

Darkness 「・・・・・・・・どうして」

Brightness 「生まれてきたこの世界で生きていて・・・ここに私はいる。
そのことの中に光を見ることができた。」

Darkness 「・・・・・・・・。」

Brightness 「この世界がもたらす、あらゆること・・・全てを受け入れていく・・・
生まれてきたときから光はここにあり続けているから・・・。」

BrightnessがDarknessに手をのばす

Darknessがその手を取りそっと握る

Brightnessはその生を見つめる

Brightness 「あなたの光・・・とても誠実に生きている。」

DarknessがBrightnessを見つめ、微笑み返す

涙がそっと頬をつたって・・・

Darkness 「ありがとう・・・」

その瞬間光が流れ込み、あたりは光に満ちる
二人は手を取りあって、その中へ歩いていく
ゆくりとたしかに生きていこうとしている
そして・・・

The End

THE END . . .

Thank you for...
Brightness and Darkness,
teacher,
and you.

Writer's Home Page : http://blog.livedoor.jp/umbrella_beso/